

水の 話

FUJI CLEAN NEWS

2018
Summer

NO. 180

【特集】

綿花と水運が紡いだ
港町・倉敷の400年。

和洋融合の景観美を生んだ歴史と文化

【フジクリーンレポート】

2018年度より補助金制度の対象範囲が拡大。
中・大型浄化槽システムの
省エネ改修と長寿命化を促進します。



綿花と水運が紡いだ 港町・倉敷の400年。

特集

和洋融合の景観美を生んだ歴史と文化

昔ながらの商家群と洋風建築が調和した美しい町並みが残る倉敷。2017(平成29)年には日本遺産に認定されるなど、「繊維のまち」としても注目を集めています。かつて一面の海だったこの周辺は、いく度もの干拓により、運河を利用した港町として繁栄を遂げ、現在の発展へとつながっています。なぜ和と洋が融合した町並みは生まれ、今も残されているのか。そこには400年にも及ぶ歴史と文化がありました。

DATA 2018年3月末現在

倉敷市(人口482,790人 面積355.63平方キロメートル)
 岡山県の南中央部に位置する倉敷市。48万人の人口を擁する中核都市でありながらも、高梁川が市西部を南北に縦断し、豊富な水と、瀬戸内の穏やかな気候、豊かな大地に恵まれています。瀬戸大橋をはじめ、倉敷美観地区、水島コンビナート、児島ジーンズストリートと多彩な魅力を持ち合わせ、年間550万人以上の観光客が訪れています。

干拓地に植えられた綿花から始まった、倉敷の歴史。

400年前の倉敷は、一面の海だった

岡山県倉敷市は、長い歴史の中で幾度となく町村合併が繰り返され、現在の倉敷市域へと発展してきました。そのため、白壁の美しい町並みが特徴の倉敷エリアをはじめ、ジーンズなど繊維産業で知られる児島エリア、コンビナートの夜景が象徴的な工場地帯が広がる水島エリアなど、エリアごとに違った魅力を発信する、個性豊かな町へと成長しています。

しかし今から遡ること約400年、倉敷市は「吉備の穴海」と呼ばれる大小の島々が点在する一面の海でした。古代から高梁川が流れるこの地では製鉄が盛んだため、山を切り崩してできた土砂が河川に流出し広大な遠浅の海が形成されていました。その後の度重なる干拓によって陸地は広げられ、現在のような平野が完成しました。岡山平野の耕地約25,000ヘクタールのうち、実に約20,000ヘクタールが干拓によって生み出された土地であり、早島、玉島、児島などの地名は、かつて“島”であった名残だと言われています。

次々に広がる干拓地と新田に咲いた綿花

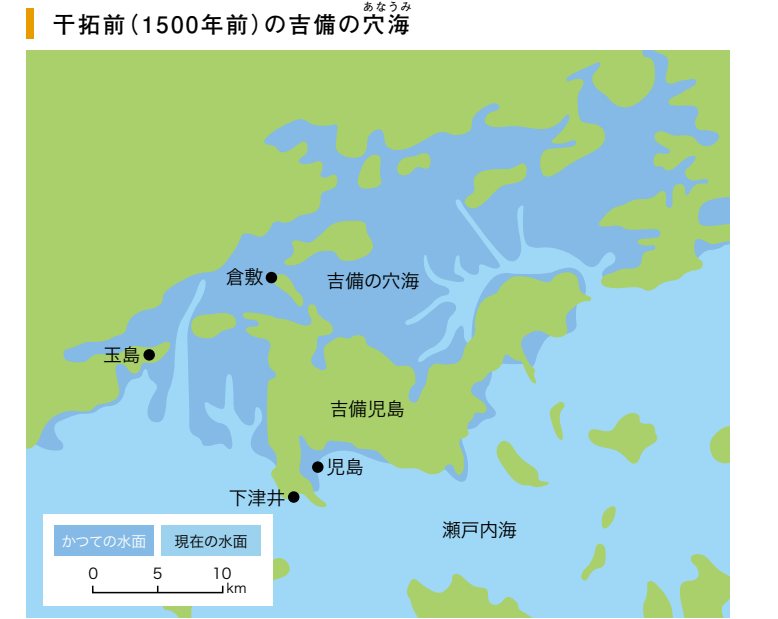
最初に干拓が進められたのは、戦国時代。当時、備前を支配していた戦国大名の宇喜多直家・秀家の父子が、領地拡大のために現在の倉敷美観地区あたりの干拓を始めました。秀家は、1581(天正9)年に児島湾の海水の浸入を防ぐために早島の地に「宇喜多堤」と言われる潮止堤防を築き、その4年後に高梁川沿いに酒津堤防を完成させると、新田の開発を進めていきました。江戸時代に入ると、1624(寛永元)年に松山城主の池田長幸が玉島地域の干拓に乗り

出し、1642(寛永19)年に備中松山藩主として入封した水谷勝隆・勝宗が2代にわたって本格的に干拓事業に取り組み始めます。勝隆は、長尾新田から船穂・勇崎・上成、勝宗は阿賀崎・柏島などを次々に干拓していき、外港がなかった松山藩は広大な農地と瀬戸内海でも有数の商港を手に入れました。高梁川下流の三角洲の発達や遠浅の海、島々の配置など、この地域が新田開発をする条件に恵まれていたことで、このような広大な干拓を実現することができたのです。干拓が進むにつれて、元々干潟に面していた倉敷は児島と陸続きになり、内陸の町になっていきました。

しかし、海から干拓されたこの土地は、塩分が多くて米作りには適しませんでした。そのため、この干拓地に植えられたのが、一輪の綿花でした。塩分に強い草や綿花の栽培が始まると、農民の努力と相まって、次々に優良な綿が生産されていき、綿花栽培から糸作り(紡績)、織物、縫製へとつながり、倉敷市の繊維産業が築かれていったのです。今に続く倉敷の繊維産業と干拓事業は、実はとても深い関わりを持っていたのです。



鶴形山公園から眺めた現在の倉敷美観地区。白壁の建物が並んでいるのがわかります。





1950(昭和25)年に江戸時代の土蔵作りの米倉を改装して作られた倉敷考古館は、美観地区のシンボルの存在

商人の町へと繁栄をもたらした「綿」と「運河」。

新田地帯に広がった綿花栽培と綿加工業

倉敷は、江戸時代初頭の水谷氏による干拓事業が始まる同じ年に、幕府直轄地、いわゆる『天領』となり代官所が置かれるようになります。そのため、周辺の直轄領をまとめる政治の中心地となり、同時に備中南部の物資の中継地として大きく発展していきました。備前・備中の南部では、江戸時代前期から木綿の生産が始められ、中後期には新田地帯を中心に綿作が広く行われるようになっていきます。瀬戸内沿岸地域は、気候が温暖で土質も良いなど綿作りの環境に適しており、綿作の盛んな村では、田の40~60%、畑の70~80%で木綿が作付けされるようになります。綿の集荷の中心地だった倉敷や玉島では、多くの買問屋や出問屋、繰屋、仲買と言われる商人が店を構えるようになり、商業地として栄えていきました。玉島港での綿の出荷は、最盛期には年



この地が徳川幕府の天領であったことを示す代官所跡碑

間2,600トンもあったと言われています。

さらに綿作の発展に伴い、糸作り、織布、「染め」に必要な藍作りも広がっていきました。農家では、とれた綿を糸にする手紡績機を所有し、家内工業として簡単な日常着などを織るようになっていき、綿加工業が発展してきます。また児島では、帯地・袴地・着尺となる小倉織や真田紐、雲才足袋などが生産されるようになり、当時金刀比羅宮との両参りで賑わっていた由加山の門前町で参拝土産としてもはやされていきました。干拓の地に育った一輪の綿花は、倉敷の大きな産業へと成長したのです。

川と海を生かして、活気あふれる港町を形成

綿花栽培や綿加工業と同時に、倉敷の繁栄を支えたのが河川や海を使った物流です。天領となった倉敷は、江戸時代初期には領主の年貢米を輸送するために、本格的に航路が整備されました。高梁川と児島湾を結ぶ運河として倉敷川がつけられると、干拓による新開地で栽培された綿や野草の取引が盛んに行われ、倉敷川を川港とした内陸の港町として賑わっていきました。倉敷川は別名「汐入川」とも言われ、上流から水が流れてくるのではなく海から水が入ってくることでできた長い入り江のような川です。そのため干拓によって海が遠くなるにつれ、川は長くなりました。

また、干拓によって瀬戸内海に面していた乙島や柏島と

陸続きになった玉島では、高瀬通し^{※1}と呼ばれる灌漑用水路がつけられました。これは松山藩主水谷勝宗が、江戸時代前期の1645(正保2)年に着手した事業で、高梁川河口一帯に開発された新田の水の確保と、松山と玉島間の物資輸送航路の構築が目的でした。高梁川上流から高瀬通しを使って高瀬舟によって運ばれてくる物資は、下流の玉島新田や阿賀崎新田で北前船^{※2}に積み込まれていました。当時、天下の台所と言われた大阪へ至る瀬戸内海は、西国の廻船はもとより東北・北海道や日本海側の各地からの北前船が行き交っており、玉島や下津井などの港町は寄港地^{※3}として栄えていきました。

干拓によって陸地化されたこの地域は、海拔0メートル地帯であったため、馬による陸地での運搬よりも速くて便利な運河による水運が主流でした。「綿」と「運河」に支えられた活発な商業は、倉敷に繁栄と大きな富をもたらし、町場として開けていくにつれて人口が飛躍的に増え、備中の地方都市として活況を呈していきました。綿の仲買・干鯛売り・油絞り・金融業などで利益を得て裕福となった経済的成功者が現れると、一定の政治力までも有りました。特に倉敷川の周辺には、豪商が建てた漆喰壁の町屋やなまこ壁の蔵屋敷が建ち並び、現在の美観地区につながる独自の美しい町並みが形成されていきました。

※1 高瀬船の航路に使われた水路

※2 瀬戸内海を通過して上方・江戸へ向かう西廻り航路を走る船

※3 船が長い航海をする時、出発地と目的地の途中で立ち寄る港

繊維産業の発展と文化都市への芽吹き

しかし、明治時代に入ると大政奉還によって天領はすべて明治政府直轄領に移され、倉敷は大きな転換期を迎えることとなります。明治政府は外国産の綿糸に対抗するために民間紡績業の育成を奨励していき、倉敷では1880(明治13)年に国内最初の民間紡績所である下村紡績所が設立されました。1888(明治21)年には、大原孝四郎がイギリス式の最新の機械と工場施設を備えた倉敷紡績所(現クラボウ)を倉敷代官所跡(現倉敷アイビースクエア)に設立すると、その後の不況を乗り越えながらも業績を拡大し、国内有数の紡績会社へと成長していきました。倉敷紡績所はこの地域の繊維産業を確立し、倉敷は多くの紡績工場が建ち並び繊維産業の町へと発展していきました。さらに孝四郎の三男である大原孫三郎が1906(明治39)年に二代目社長に就任すると、事業だけに留まらず若手画家の育成や西欧名画の収集、地域病院の設立、孤児院の支援など、幅広い事業を展開し、倉敷の町に文化の礎を築きました。

商人の町から繊維産業の町へと変化する中で、運河は紡績工場の原料である綿を運ぶ物流手段として引き続き活用されていました。しかし1891(明治24)年に山陽鉄道が倉敷まで延伸し、新たな流通の拠点が生ずると徐々に倉敷の町は変貌していきます。流通機能が運河から鉄道に変わるにつれて、都市機能や町の賑わいまでもが、これまでの倉敷川畔界隈から工場の集まる鶴形山北麓地域へと移っていったのです。

- 綿花の中継取引や金比羅参りをする人の宿場として繁栄した港町の下津井。県指定町並み保存地区となっています
- 運搬船などの船着場として利用されていた川の護岸に設けられた雁木(石段)。伝統的建造物群保存地区の工作物に指定されています
- 美観地区でよく目にするなまこ壁。防火、防風、鼠避け、装飾を目的に、瓦を壁に張り付け、目地を漆喰で埋めており、ナマコに似ていることからこの名前が付けられました



川沿いの町並みに人が集まる倉敷の新たな魅力。

「町並み」という財産を生かした 観光地・倉敷の誕生

町屋としての賑わいが失われていった倉敷川畔ですが、昭和20～30年代になると新たな魅力に注目が集まり始めます。倉敷を訪れた外国人旅行者をはじめ旅行関連雑誌などのメディアが、かつての繁栄が昔のままに残されている美しい町並みの魅力を語り始めたのです。大原孫三郎の長男で倉敷絹織（現クラレ）の社長であった総一郎は、戦前より倉敷の歴史的な町並みを守りたいと考えており、1948（昭和23）年に江戸時代の倉庫を改装して倉敷民藝館を開館します。他にも民芸運動家をはじめ、行政・住民主体の取り組みとして町並み保存運動の機運が高まっていくと、1968（昭和43）年に倉敷市では「倉敷市伝統美観保存条例」を可決。1974（昭和49）年には倉敷紡績所（現クラボウ）の工場を再生整備した倉敷アイビースクエアが開業しました。すでにある建物を時代に合わせて活用することで、古さと新しさ、和と洋、さまざまな魅力が融合した観光の町として、倉敷は活気を取り戻していきました。

新たな魅力を創出し続ける、 懐かしくて新しい町

かつて運河として繁栄を支えていた倉敷川は、物流の主流が鉄道に移っていくとともに運搬量も制限されていき、1959（昭和34）年の児島湾締切堤防の完成によって完全に運河としての機能を喪失していました。水源のない倉敷

川は、昭和30年代には生活排水などの影響で水質が悪化していましたが、観光地として注目を集めたことにより大規模な河川整備が行われました。ヘドロの除去をはじめ、水を溜めていた下流水門を開放することで流速をつくり、水質浄化を実現しました。現在も定期的な水質調査、清掃活動、水門開放などを行い水質保全に取り組んでいます。2006（平成18）年からは観光川舟の営業運行が開始され、川の中をゆったりと舟が往来する情緒あふれる情景が、多くの観光客を楽しませてくれます。

美観地区以外にも、繊維産業については港町である児島地区で足袋、学生服、作業着など、時代に合ったさまざまな製品が次々に生み出されていきました。大正時代以降に学生服が急速に浸透していくと、全国の学生服の7割を現在の児島産が占めるようになりました。1965（昭和40）年には、これまでの縫製の技術を生かして国内初のジーンズを販売し、「国産ジーンズの発祥の地」として広く知られるようになり、帆布や草製品など、今もおお多くの繊維製品が生まれ続けています。

一面の海だった倉敷は、江戸時代には商人の町、明治時代は繊維産業の町、近年は工業の町、文化と観光の町として、さまざまな姿に変わりながらも、常に多くの人を惹きつけ発展してきました。「海」と「川」によって培われた地の恵みを生かして、多彩な魅力を創出する倉敷は、これからもまた時代の動向と地域の良さを融合しながら、新しい“まち”を見出していくことでしょう。



1. 倉敷紡績所（現・クラボウ）の工場を改装してつくられた倉敷アイビースクエア。現在はホテルや記念館など複合施設として活用されています
2. 児島ジーンズストリートは、地元ジーンズメーカーのショップや雑貨店が連なるエリア
3. 定期的にも実施されている倉敷川の清掃



【取材協力・写真提供・資料提供】
○倉敷市教育委員会生涯学習部 文化財保護課

- 【参考資料】
- 岡山県の歴史（藤井学 狩野久 竹林榮一 倉地克直 前田昌義 著／株式会社 山川出版社 発行）
 - 繊維王国おかやま今昔 一綿花・学生服そしてジーンズ（猪木 正実 著／日本文教出版 株式会社 発行）
 - 倉敷美観地区 一歴史と民俗一（吉原 睦 著／日本文教出版 株式会社 発行）
 - 岡山県の歴史散歩（岡山県の歴史散歩編集委員会 編／株式会社 山川出版社 発行）
 - 復刻増補 倉敷今昔写真帳（間壁 忠彦 編／復刻増補倉敷今昔写真帳刊行会 発行）
 - 倉の中からくらし見れば（間壁 忠彦 著／手帖社 発行）



昔の繁栄がしのばれる美観地区は、2010年に「平成22年度都市景観大賞「美しいまちみ大賞」」、2012年に「2012年アジア都市景観賞「大賞」」を受賞。現在は、倉敷市と周辺住民との協力によって、夜間景観照明も行われています

四季を楽しませてくれる、 果物の旬を詰め込んだ「季節のジャム」



白桃やマスカットなど、果物の豊富な岡山県。その岡山県倉敷市で、旬の果物を使い人気を集めているのが、三宅商店の手がける「季節のジャム」です。三宅商店は市内3箇所カフェを運営しながら、水と緑の豊かな倉敷市酒津に構えた工房で、ジャムや焼き菓子を企画・製造。旬の短い果物を、長く美味しく味わってもらうため、地元生産農家から届けられる果物を丁寧に炊きあげ、色鮮やかなジャムに仕上げています。形の不揃いなものや傷があり市場に出ない果物も無駄にせずに使っています。巡る季節によってさまざまな味をお届けする「季節のジャム」は、日本中にファンが広がっています。

ここで購入できます

水辺のカフェ 三宅商店 酒津

岡山県倉敷市酒津2829
Tel 086-435-0046

営業時間
9:00～17:30（土・日、祝日は7:00～）
※12～2月は～17:00（土・日、祝日は8:00～17:30）

休業日 年末年始

Web
<http://www.miyakeshouten-sakazu.com>

倉敷の水源地である酒津に佇む、古民家を再利用したオシャレなカフェです。「倉敷のルーツは水だ」と思った店主が、水や緑の自然と触れ合ってほしいという思いからこの地でオープンしました。地元農家の方から分けてもらった果物や玄米を使ったメニューや、ジャムを使ったデザートなど季節の味が楽しめます。

二層になった季節のジャムは、オシャレな見た目と、果物の絶妙な組み合わせを楽しめます。



2018年度より補助金制度の対象範囲が拡大。

中・大型浄化槽システムの省エネ改修と長寿命化を促進します。

中・大型浄化槽の機械設備の省エネ化を促進する補助金制度が拡大

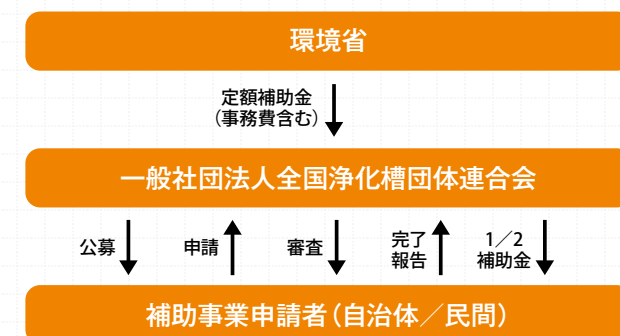
集合住宅や病院などの施設に設置された中・大型浄化槽に使われている機械設備（ブロワ・水中ポンプ・スクリーン等）の低炭素化は、家庭などに設置されている小型浄化槽に比べて遅れている状況です。

その対策として、環境省 廃棄物・リサイクル対策部（現：環境省 環境再生・資源循環局）は、2017年度より二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（省エネ型 大型浄化槽システム導入推進事業）制度をスタートさせました。これは、101人槽以上の既設浄化槽について省エネ化につながる各種機械設備（高効率ブロワ、インバータ制御装置等）の導入・改修に必要な費用の2分の1が補助される制度です。

2018年度からは、省エネ型 中・大型浄化槽システム導入推進事業として既設浄化槽機器交換の対象範囲が51人槽以上に拡大されました。さらに101人槽以上の既設浄化槽（ブロワを使用するものに限る）で、かつ旧構造基準の浄化槽本体を省エネ型浄化槽に転換する際も、費用の2分の1が補助されることになりました。予算も、2017年度の10億円から2018年度は最大16億円へと大幅にアップしています。これによって既設の中・大型浄化槽および、それに付帯する機械設備の省エネ改修を促進させ、浄化槽システム全体の低炭素化を図るとともに、老朽化した浄化槽の長寿命化を実現していきます。2017年は7月から12月までに179件の申請があり、これによって二酸化炭素排出量を約460トン*削減することができたという実績結果も出ています。

*一般社団法人全国浄化槽団体連合会より

事業スキーム(2018年度)

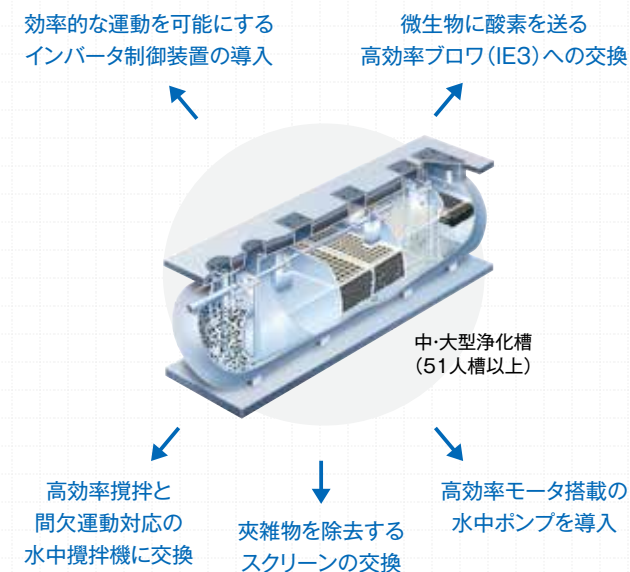


大型浄化槽の転換や複雑な申請手続きをフジクリーンがサポート

大型浄化槽の転換には、綿密な現地調査により既存の配管や電気系統などの位置を正しく判断し、最適な施工をするための経験と知識が必要となります。さらに施工にあたっては、既存浄化槽の廃止届、新設浄化槽の設置届、特定施設の排水処理計画書（特定施設に該当する場合）、放流同意書などの作成、提出が求められます。また一般社団法人全国浄化槽団体連合会へ行う補助金の申請手続きには、補助金申請額をはじめ、実施計画書、CO₂削減効果計画書、補助金事業に要する経費内訳、補助事業の開始および完了予定など、多くの提出書類が必須となっています。

このような申請者の負担を軽減するため、フジクリーンでは申請手続きに必要な情報を提供し、作業を支援しています。また、大型浄化槽の転換工事についても、これまでに多くの転換実績を持っており、現地調査に基づいた施工提案や最適な転換を実現しています。フジクリーンは、今後も長年培った経験と専門知識を生かし、より多くの浄化槽の省エネ化を支援していきます。

省エネ改修の例



フジクリーンの取替実績

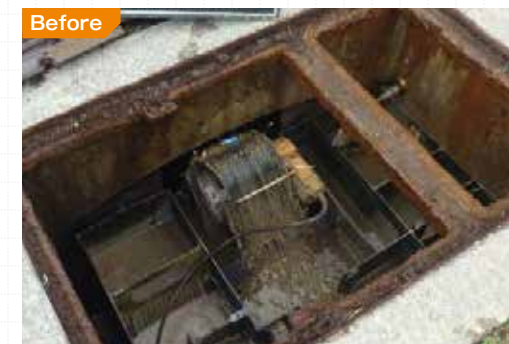
水中ポンプ



ばっ気ブロワ



微細目スクリーン



薬注ポンプ



導入事例
紹介

ヨルダン大学にフジクリーン小型浄化槽が設置。 さらなる浄化槽の導入拡大へ期待。

慢性的な水不足問題を抱えるヨルダン。準乾燥地域であるなどの地理的要因もあり、問題は深刻を極めています。そのため、水不足対策の一助として、的確に処理した排水を灌漑農業用水として再利用できる処理装置への関心が高まっています。そうした状況の中、現地で長年活動されている株式会社太知ホールディングスの協力により、性能はもちろん設置面積の小ささ、保守点検の容易さの点からもフジクリーンの製品が最適であると判断され、2017年8月に実際の性能を評価するため、ヨルダン大学の水・エネルギー環境センター(WEEC)に実験的に導入されました。

設置後には、処理水質の検査が行われ、その結果をもとに書かれたヨルダン大学のMotasem N. Saidan教授らの論文が、MDPI(オープンアクセス学術雑誌)に投稿されました。本論文では、処理水がヨルダンにおける植物灌漑用再利用水水質基準の「果樹、郊外緑道そして緑地景観用」「作物、商品作物そして森林用」に適合することから、今後、難民キャンプや水不足の住宅エリアにおける分散型下水処理設備として有効と示され、フジクリーン製品の導入拡大に期待がよせられています。



処理水タンク



小型浄化槽設置工事の様子

TOPICS

下水道、くらしを支え、未来を拓く 下水道展'18 北九州

入場料
無料

2018年 7月24日(火)~27日(金)
10:00~17:00 (ただし初日開館10:30、最終日閉館16:00)

会場:西日本総合展示場(福岡県北九州市)
主催:公益社団法人 日本下水道協会

出展ブース 新館A展示場 [A-644]

7月26日(木) 13:00~13:25には、フジクリーンが西日本総合展示場新館レストスペースBにて、「下水道クイックプロジェクト」のプレゼンテーションを行います。ぜひご来場ください!



昨年のフジクリーンブース

フジクリーン
紹介ページは
こちらから



Web
サービス

製品カタログがリニューアル。 ウェブサイトにデジタルカタログを導入しました。

この度フジクリーンでは、製品カタログをリニューアルしました。今回リニューアルした総合カタログは、これまで個別に分かれていた「小型・中型浄化槽」「大型浄化槽・産業廃水処理ユニット」「プロウ」の3種類のカタログを1冊にまとめ、フジクリーンの製品ラインナップを一度にご覧いただくことができます。またお客さまの幅広いニーズにお応えするために、交付金や認定制度、浄化槽設置計画についてのトピックスも掲載しています。

この総合カタログのデジタル版を、フジクリーンのウェブサイトにて公開しています。パソコンやスマートフォンから、ぜひご覧ください。



■ リニューアルした総合カタログ

■ デジタルカタログ



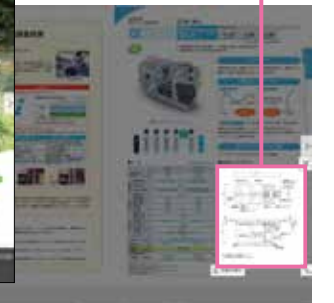
トップページのバナーより
アクセスできます

ここをクリック



デジタルカタログページ

必要な箇所を
切り抜くこともできます。



イベント

浄化槽用マンホールトイレ説明会 を開催しました。

2018年3月、埼玉県秩父市および秩父郡の防災担当者が集まる会議において、浄化槽用マンホールトイレの使用方法等の説明会を行いました。

説明会は、午前中は秩父市、午後は小鹿野町にて行われ、各地域の衛生担当や防災担当の方々が熱心に耳を傾けてくださいました。



浄化槽用マンホールトイレの使用方法を実際に説明

組織体制
の変更

福岡支店が 移転しました。

福岡支店が2018年5月より事務所を移転しました。新事務所は以下になります。

電話番号、ファックス番号の変更はありません。

新住所

〒812-0016
福岡市博多区博多駅南
4-2-10 南近代ビル2階
TEL.092-441-0222

もっと
motto!
広げよう

水環境をきれいに
する取り組み

愛知県小牧市
大山川ホタルの会



代表
仲根 弘志郎さん

30年続いた先代の活動の灯は消せない。 ホタルの光舞う郷土を継いで、次世代へ。



川面にやわらかな日射しが入るよう、生い茂る枝葉を刈り込む作業



毎年6月のホタルまつりは
地域の人がつながる
一大イベントです



愛知県の北西部に位置する小牧市は、東西に平たく広がる形をしています。西部には市役所をはじめ、戦国時代「小牧・長久手の戦い」の舞台になった小牧山城があり、東部へ進むほど自然豊かな田畑や河川、山々を望む風景が広がっています。

2016年設立の「大山川ホタルの会」は、東部を流れる大山川上流の環境保全とホタルの保護を行い、自然を守る活動をしています。代表の仲根弘志郎さんが、会を率いることになった経緯は前身の「大山川の自然に親しむ会」が結成された30年程前に遡ります。当時、水田に使用された農薬の影響で絶滅したホタルを復活させようと、有志たちが尽力した成果を少年期の仲根さんは記憶していました。そして、約30年に及ぶ環境活動を支えてきた有志たちも80代の高齢となり、会の存続も危うくなったところ、PTA役員や消防団など地元の活動に尽力する仲根さんに、ホタルの生態系を保護する活動を継承してほしいと白羽の矢が立ったのです。

「私にとって未知の分野なので最初は迷いましたが、先代たちが毎年6月にやっておられたホタルまつりをなくすのは惜しい」と感じた仲根さんは、地域の宝を守るべく新たな体制での活動を決意。協力者を集め、ホタルの生態系を維持するために先代たちや環境活動団体への視察を重ねていきました。活動領域は上流部にあるホタルの里から愛知用水、年上橋、ホタルまつりの会場となる市民四季の森までの約2キロメートル。この4箇所はホタルの飛翔数を確認するポイントでもあり、川周辺の草刈りやゴミ拾い、清掃を定期的実施、ホタルの幼虫の餌になるカワニナの繁殖活動も行います。諸活動が実を結び、ホタルの飛翔数は増加。観測データをSNSやブログで伝え、活動への賛同も高まっています。30~40代を中心に24名で構成された会のメンバーも地域の魅力に改めて気づき、他の活動に参加する意識が強くなったと聞きます。これらの活動は、地域を支える次世代に託す“願いのメッセージ”でもあるのです。



美しい水を守る

フジクリーン工業株式会社

本社 名古屋市中区今池四丁目1番4号 〒464-8613 TEL (052) 733-0325 <http://www.fujiclean.co.jp>

札幌支店 (011) 882-1222	茨城営業所 (029) 839-2271	岐阜営業所 (058) 274-1011	佐賀営業所 (0952) 31-9151
東北支店 (022) 212-3339	宇都宮営業所 (028) 625-4650	静岡営業所 (054) 286-4145	熊本営業所 (096) 388-3571
東京支店 (03) 3288-4511	群馬営業所 (027) 327-5611	四日市営業所 (059) 350-0788	大分営業所 (097) 558-5135
名古屋支店 (052) 733-0250	埼玉営業所 (048) 620-1424	和歌山営業所 (073) 422-3634	宮崎営業所 (0985) 32-3064
大阪支店 (06) 6396-6166	千葉営業所 (043) 206-5171	広島営業所 (082) 843-3315	鹿児島営業所 (099) 257-3501
福岡支店 (092) 441-0222	新潟営業所 (025) 271-8668	高松営業所 (087) 869-8680	沖縄営業所 (098) 862-9533
盛岡営業所 (019) 604-2527	山梨営業所 (055) 275-9300	松山営業所 (089) 967-6123	
郡山営業所 (024) 944-7780	松本営業所 (0263) 27-2080	高知営業所 (088) 803-1520	



発行 2018年7月1日
フジクリーン工業株式会社「水の話」編集室